

## 第8回 まちづくり市民ワークショップ《いばらきMIRAIカフェ》ニュース

### ◆ 次 第 ◆

(開会)

1. はじめに
  - ・ 前回までの振り返り、今回の取組について
2. グループワーク①
  - ・ 各班の事業提案の再確認・発表
  - ・ 久(ひさ)先生からアドバイス
3. グループワーク②
  - ・ 事業提案を軸にした会話(3ラウンド)
4. グループワーク③
  - ・ 会話を通じて得られた提案者の「気づき」を各班で共有
  - ・ 各班から発表
  - ・ 久(ひさ)先生からコメント
5. その他
  - ・ プロジェクトチームからの報告

(閉会)

日時:平成 25 年 12 月 14 日(土)、9:30~12:30

場所:茨木市役所南館 10 階大会議室



当日の会場の様子

### ◆第 8 回ワークショップの概要

第8回ワークショップは 62 人の方に出席していただきました。

- まず、各班で自分たちでできる事業の提案内容を再確認して発表してもらい、それについて近畿大学久(ひさ)先生からアドバイスをいただきました。
- 次に、4人掛けの丸テーブルに提案者(各班の提案内容を説明する人)1人、応援者(別の班からその提案内容にアドバイスや応援する人)3人ずつ座り、1回約 20 分のテーブル移動を3回行い、提案内容を軸にした会話を各テーブルでしていただきました。
- これらを踏まえ、各班で会話を通じて得られた「気づき」を共有し、発表してもらい、それについて久先生からコメントをいただきました。

### ◆久先生からのアドバイス概要

- ・ 大きな提案が多いようなので、自分たちが本当に実行できる規模かどうかを点検していただきたい。これだけの多くの人が集まっているので、協力者をうまく見つけてほしい。ここにいる人、さらに知り合いも含めてつながっていければと思う。
- ・ 事例を3つ紹介する。
  - ①塩尻市(長野県)の商店街では、行政マンが仲間を集めて、無理をしない範囲でお金を出し合い、空き家を自分たちで借りている。空き店舗が埋まることで仲間が増え、その後のイベントなどを通じてつながりを広げていっている。
  - ②大阪市都島区の桜通商店街では、地元に住んでいる近畿大学の大学院生が商店街に飛び込みをして空き家を無料で貸してもらい、地域での活動を通じて知り合った仲間と地域の子ども達を集めて寺子屋を開き、放課後の子育て支援をしている。1人の大学院生でも想いをぶつけて協力者が現れるとできることがある。
  - ③尼崎市(兵庫県)に“下坂部の家”というのがある。家主はマンションに移り、元の家は毎日空けていて1回 500 円で登録すれば、何度使っても良いということになっている。
- ・ 今後、協力者を探したり、協力者として申し出てほしい。

## ◆提案者の「気づき」の発表

### 《1班》福祉・健康

- ・ ボランティアのポイント制を考えている。
- ・ ①ボランティアをつくるきっかけづくりが大切、②小中学生に対し、ポイント制を夏休みの課題にする、③小さな事から取り組む、の3つの意見をもらった。

### 《2班》福祉・健康

- ・ しくみが漠然としていたが、具体的なアドバイスをもらった。
- ・ 大学の学生寮に共同キッチンがあり、留学生が中心に学生が食材を持ち寄って、食べたい料理をつくって食べているという活動がある。これを参考に、いろんな世代、考え方が違った人が持ち寄って食べられるしくみづくりができればと思う。
- ・ 世代は限られるが、三島の婦人会やよい会は、独居老人の方とつよに料理をつくって食べてイベントをする活動をしているので、話を聞いて連携していければよい。
- ・ 市内に公民館、コミセンが各小学校区にあり、それを活用することにより、場所、人との関わりをもう一度整理したい。

### 《3班》子育て・教育

- ・ 班では親の意識改革をテーマに親子関係に限定していた。
- ・ シニアの応援者から、敬老会や自治会のシニアの力を借りればどうか、シニアは金も力も時間もあるという意見をもらった。核家族化が進んでいるので地域で大家族をつくれればと思う。
- ・ 親子会は、親ありきになるので必ず参加してくれる。そこで、親の会議と子どもの会議を対等に行い、お互いにやりたいことを話す。そうすれば、子どもは考える力、親は子どもの考えを聞く力がつく。

### 《4班》子育て・教育

- ・ 地域子ども達に生きていく力をつけるにはどうしたらよいのかを考えている。
- ・ 学生バンクや高齢者バンクをつくって登録してもらおう。例えば、小さな子どもを預けたり、料理、木工、勉強、自転車の乗り方の練習、生き物と、得意なジャンルを教えてもらおう。応援者の高齢者からは実際に応援できると言ってもらい、子育て世代側のニーズもある。
- ・ 誰がコーディネートするか、どうやって宣伝するのか、どういうふうに形づくっていくか、誰が動きだすのかが課題である。



### 《5班》 環境

- ・ シニアと市とうまくコミュニケーション、キャッチボールをしながら改善し、持続性を持たせる。
- ・ 個人の意識を高めることが必要で、市の目標設定に対し市民も痛みを伴うよう、有料袋、各家庭ゴミ量の制限、そのためのワッペン等、ゴミの削減の将来的な方法のアドバイスをもらったのでつめていきたい。

### 《6班》 産業

- ・ 12月17日(火)15時から、まちや商店街を知るために歩くので、参加できる方は同行してほしい。
- ・ アートなまちの取り組みとして、やさしい色に統一することによって、そこに違う味わいが出てくる。
- ・ 若い人は商店街に入りやすく、コミュニケーションがとりやすいのがわかった。昔は魚屋さんからお客さんに料理を提案していたが、そのような店がたくさんできればと思う。
- ・ ガイド付き商店街があっても良いし、体験ができる、子どもやシニアが楽しめる場所があってもよい。トイレの充実も大切である。
- ・ 介護の車を利用して、地域と商店街を結びつける。
- ・ 若い人は若い人で集いがあり、お互いが持っている集いをつなぎ合わせて、まちを活性化していく。その場所は商店街の喫茶店でもよい。
- ・ 野菜の即売会をしてもよい。
- ・ 茨木のまちを品良くしたい、いいものを大事にして高級感があって手頃感をだしていく取り組みを進めたい。

### 《7班》 都市

- ・ 交通と賑わいの2つの視点で進めていた。
- ・ 交通を考える前に人が集まれるしくみが必要ではないか。楽市楽座の考え方を参考にしたい。
- ・ バス路線が分かりにくい。どのバスに乗ればどこへいくのかを示すものがあればよいのではないか。
- ・ 今後、高齢者が街に住むことも増えてくるので、住み替えしやすいしくみづくりを考えたい。

### 《8班》 安全・安心

- ・ 地震をテーマに、まず安否確認、避難所を考え、それに、地震がくれば火事がおきるので防火という面を付け加える。防災は家族ぐるみで備えることが大切で、それが地域全体の防災力の底上げにもつながるので、そのための意識の向上を図る。
- ・ 訓練校区を明確にして、順次取り組みを進め、地域行事



に参加する。

- ・ けがの救護の問題もとりあげていきたい。

#### 《9班》文化・生涯学習

- ・ 学校関係を活用できればという話をいただいた。学校の先生からの話を聞いていろいろなイベントに参加することになり、情報を常にもらっていると今度は自分からさがしに行こうとなる。
- ・ PTA等の既存の大きな組織の中で情報やイベントを広げてもらえば、継続していき、参加者も増えていく。
- ・ まず、イベント等の大きなものがあってというのが基本で、事業提案との矛盾をどうつめていくかが今後の課題である。

#### 《10班》つながり・協働

- ・ 自治体の活性化、日常の挨拶等のコミュニケーションが大事であり、そのためにはイベントに参加し、その中から人のつながりをつくっていくことと、既存地域団体、大学、商店街、市民、行政をどうつなげていくか、という2つのテーマが出てきた。
- ・ イベントの参加人数を増やすためには、若い人にはインターネットサイト上に参加した人の感想掲示板をつくり、次回の告知もする。そうすれば参加者が増えていく。高齢者等には元気のあるシルバーの経験者等に協力してもらい魅力のあるチラシをつくる。
- ・ 口コミも大切で、SNS も口コミの一つ、また女性特有の口コミの力もある。既存の都市をつなげるには、商店街ごとにつなげる、大学ごとにつなげる、自治会を一新して地域の窓口をつくる。無理であれば地域団体のリーダーだけでもつながってもらおう。

#### 《11班》つながり・協働

- ・ 話し合いの場をつくらうということを提案した。
- ・ その必要性については応援者から同意を得られた。自治会等の活性化にもなり、元気なシニアの生きがいにもなる。話し合いの中で新たな発見があり成長の場になる。また、料理が得意な方とデザイナーが集まってコラボが生まれるような場合もある。
- ・ 大事なことは継続させることで、小さな事でも何かやっていると、注目される、人が集まる、活性化するという流れである。
- ・ 小中学生、子育て世代も時間がなく忙しいので、はっきりした目的やメリットがない事業は難しい。

### ◆久先生からのコメント概要

- ・ 全体については、まず、同じメンバーで話をしていると煮詰まってくるので、他の意見もいれることは、違う方法があることに気づくことができ、良いことだと感じた。



- ・ 水俣市(熊本県)では“無い物ねだり”から“有る物探し”への取り組みがあり、地域の資源を知るという「水俣学」から全国的な「地元学」へとつながっている。お金もかからないし、明日からでもできる。地域にどんな資源があるのかを知ることからはじめると、手がかりが出てくる。
- ・ 「里山資本主義」という本から学んだことに、“手間返しの習慣”、いわゆる“お互いさま”の習慣がある。地域の物でお金をかけず地域を活性化できる。プレゼントをもらうときにお金がうれしいのか、手間がうれしいのかということで、お金がなかったら手間をかける方法もある。
- ・ 資源を生かすという視点では、“私は”も資源である。まわりの方、まちに何ができるのか。先ほどの本によると、農家の方は多様な技を持っていて、それを生かすことによって中国地方の山間部は活性化している。何かつくれる、提供できるものを出し合って手をつないでいけば、すぐにできるものもあるのではと思う。
- ・ 今後、アドバイスや情報提供が必要なら、個別の相談でもいいのでどんどん来てほしい。  
→終了後、さっそく相談しているグループがありました！



### ◆プロジェクトチームからの報告

最後に、市民ワークショップに参加している若手市職員で構成されている「総合計画検討プロジェクトチーム」から、市民の皆さんの声をもとに検討したまちづくりのスローガン「ほっといばらき もっと、ずっと」等について報告しました。

#### (感想)

- \* 自分達のグループでは出なかった「新たな」「違う角度の」意見が頂けて、非常にためになりました。
- \* 違うグループに入り、新しい意見や違った見方を聞くことが出来ました。大きな内容だったものから、少しずつ具体的な身近な内容になってきたように思います。
- \* “話し合いの場づくり”について、若い世代とシニア世代で、トーンが対照的だったのが興味深かった。WSに参加しているメンバーなので、若い世代でも肯定的な意見が多いかと思いましたが、やはり現実的に考えると難しいようで、工夫が必要だと感じた。
- \* 自分でできることという視点でみんなが考えられるように。
- \* 机上の空論に終わらず実生活に活かせるものを具体的に取り組むことを期待しています。
- \* 小さな事でもいいので、何か一緒にこのMIRAIカフェの方と取り組みができるといいなあと思います。
- \* 市民に対して、既にある、既に出来ることは何か。その利用方法に近い、将来やっていくことは何か整理した物が欲しい。
- \* 発表される方の時間配分を意識して欲しい。
- \* (プロジェクトチームからの報告を受けて)とても斬新なスローガンでよいと思います。カッコいいです。色々ワークショップからのキーワードを吸い上げて頂きありがとうございます。(など)

### ◆次回(第9回)の予定

日時:1月18日(土)9:30~12:00 場所:茨木市役所南館10階大会議室

内容:「市民力で進めるまちづくり」

第10回の発表会にむけて、事業提案のパネルづくりとシナリオづくりに取り組みます。



発行:いばらきMIRAIカフェ事務局(茨木市企画財政部政策企画課 TEL072-620-1605)

ホームページ <http://www.city.ibaraki.osaka.jp/mirai>

Facebook ページ <https://www.facebook.com/ibaraki.mirai.project>